

◎Aさん（7月18日刈羽村）

今日 応急危険度判定作業で、刈羽村に行ってきました。

持ち物等、指示されている物が 全て必要ではありません。

また応判作業についても、中越地震の小千谷の場合と違う点があります。

暑さが増してきていますので体力が少しでも無駄にならないよう

これから向かわれる皆さんにお知らせしたいと思います。

1) 必要な持ち物

- ・ヘルメット（応急危険度判定士のシールを現地で貼ります。）
- ・電卓（調査票の集計に必要です。集計作業は役場の会議室です。
現地に持ち運ぶ必要はありません。）
- ・筆記用具（鉛筆での記入になります。また消しゴムも必須です。）
- ・用箋挟 [いわゆるクリップボード、ぱっちんとはさむやつ]
(調査票をこれに挟んで家屋を回ります。)
- ・蛍光ペン3色 ピンク・黄色・緑（地図上に判定家屋の色を塗ります。)
- ・油性の黒マジック（張り紙にいろいろ記入するため）
- ・ガムテープ（張り紙を貼るため 応判本部にはあまりありません）
(新品は重いので、少し量が減ってる布テープが楽です)
- ・履きなれた運動靴とリュックサック（たくさん歩きます&立ちながら記入作業です。)

②到着後から作業の内容など

- ・二人で一組を組みます。
組合せはあらかじめメンバーで相談しておいてください。
応判本部は組合せを指示している余裕はありません。
- ・腕章と名札を受け取ります。
名札に応急危険度判定士のカードを入れます。
- ・担当する地区の地図を受け取ります。
その場所までは役場の方が送迎してくれます。
- ・危険度の判定をし、調査票の記入&張り紙をおこなう。
 - ★刈羽ルール（小千谷と違う点）
調査票の対象は『住戸』のみ
倉庫や作業場は“調査票不要” 張り紙はしてもしなくてもよい。
- ・調査票の記入
 - ★建物の持ち主・構造・階数はここでしっかり記入しておくとなんが楽。
 - ★建物の1Fの大きさをm×mで記入する欄があるので
とりあえず間×間でメモしておく。
あとで本部でのまとめ作業のとき、電卓を使ってmで記入すればよい。
 - ★一発で『危険』と判断されるものは、そこで調査終了。【項目1】
そうでないものは「地盤と構造など」で判断していく【項目2】

あるいは「瓦や窓や仕上げの落下など」で判断していく【項目3】

★なぜ危険や要注意なのか、コメント欄に必ず書く。

張り紙にも同じ内容を書いて、家主がいれば必ず親切な説明をする。

- ・調査票のまとめ作業は役場でおこなう。
- 判定家屋を一覧地図に塗る。

3) ちなみに

- ・高速道路は長岡過ぎてからとんでもない大渋滞でした。
6:30に鳥屋野公園を出発して、8:30に刈羽村役場には着けませんでした。
116号線をお奨めします。
- ・作業についてのレクチャーは基本的にはありません。
前回の地震で応判作業を経験しているということを前提に
調査票一式のアイテムを渡されます。
柏崎支部の田辺さん(県女性委員)が詰めていますので疑問点は田辺さんにお尋ねください。
- ・調査票の書き方などは、応判本部の壁に貼ってあります。
朝早めに到着して、それを一読するのがベストです。
- ・被災者の話を聞いてあげることが、大事な大事な作業だと痛感しています。

長々と書きましたが、知らずに無駄な作業をしていた点もあり暑さも手伝い結構疲労して帰ってきました。次の方が同じ無駄などをしないようにと思い報告します。

刈羽村以外の町村に行かれた方がいらっしゃいましたら

是非「うちはこうだったよ」という情報を流してください。(^^) みなさんおつかれさまです

◎Bさん(7月18日刈羽村)

Aさん、おつかれのところとても詳しくご報告ありがとうございます。

そうですね、私も同じく昨日刈羽村に行ってきましたが

応急危険度判定作業にまわって感じたことは意外と道路が危険でした。

倒壊している家を目の当たりにして、思わずその家だけを見ながら進むと、

道路の損傷が激しく、大きく道路の真ん中がポッカリ穴になっていたり、

盛り上がってアスファルトが岩のように突き出ていたり

注意しながら歩いていかないと危険です。

建物にガラスが飛び散っているところもあり

作業靴も軽くてなおかつ、ある程度底の厚い物がよいようです。

両手は極力あけて、クリップボードと筆記作業がし易くした方がよいです。

応急危険度判定調査表はA4ですので、

図面作業ではありませんので、A4のクリップボードが丁度よかったです。

現地入りしますと、昼食を買うところはありませんので

昼食と水分補給の飲み物は事前にしっかりと用意してきましょう。

昨日現在では断水したままでしたので、仮設トイレの前に
消毒液とウェットティッシュがあるだけでした。
昼食の時など、おしぼりかポケットウェットティッシュを各自用意していくとよいです。

◎Cさん 7月20日刈羽村

Aさんのメール、Bさんのメールがとても参考になり、助かりました。

●応急危険度判定士のカードを入れる名札は、
現地で借りれましたが、行く前に、もう準備して行ったほうがいいと思います。
普通の首から下げるタイプです。

●下げ振り・コンベックス不要とありましたが、コンベックスは、あったほうがいいと思います。
傾斜をみるのに使いました。(1箇所だけでしたが。)

被災した方の「いつ来るか、待っていた。」という言葉にせつなくなりました。
無理ありません。
地震の日から5日も経っているのですから。

迅速に、かつ 被災者を思いやって作業を進めていく事の大切さを感じています。
みんなで力を合わせましょう！

◎Aさん 7月19日刈羽村

2日間お手伝いした応急危険度判定は
迅速にマニュアルどおりのジャッジメントをすることが要求される作業ですが
住人の気持ちに立つと、私にはそれが途方もなく難しいことでした。

小千谷のときにも問題になりましたが赤紙を貼られると、ご近所の手前もあって
家に住んでいづらくなるそうです。

住人と会話したり住人の気持ちに寄り添うことや
心で感じるものは、応判判定には不要なのだろうかと考え込みました。

都市型災害の場合を想定したジャッジメントが
刈羽のような大きな敷地の大きな住宅にも当てはまるとは思えず
制度の不完全さを感じています。

今日は阿部常務が県へ赴き、住宅相談や罹災判定などを含む
今後の諸々について、お話しをしてくるとのことでした。

応判が終われば次の段階へと変わります。
3年前の教訓が十分に生かされるようにと願っています。